

## スキー場を陰で支える

「コースに危険な箇所がないかを点検したり、吹雪で視界が悪くなった時に注意喚起を行ったりすることで、事故防止を図っています。万が一、けがをした人がいれば応急手当を行い、ふもとまで搬送します。救助するまでに、二次事故が起きないようにすることも大事ですね」とスキーパトロールについて教えてくれた濱田さん。

小学生の頃からスキーを始め、その楽しさのとりこになった濱田さんは、せっかくの楽しさをふいにしてしまう事故をなくしたいとの思いから、全日本スキー連盟のスキーパトロール公認資格を取得し、これまで32年間という長きにわたり、カルルス温泉サンライバスキー場でスキーパトロールを続けています。

「子どもから大人まで幅広く人



▲サンライバスキー場を見守るスキーパトロールのメンバー

気のあるスノースポーツですが、スキーヤーやスノーボーダー同士の衝突、自身の転倒など、ちょっとした不注意で重大なけがを負い、本人だけではなく、家族や友人なども悲しませる事故になることも。スキーパトロールによって、そういった事故を減らしていきたい」と濱田さんは話していました。

## パトロールが広げる笑顔の輪

カルルス温泉サンライバスキー場では、スキーパトロール公認資格をもった人や日本赤十字社が養成している赤十字雪上安全法救助員約15人が、スキーパトロールや定期的な搬送訓練などを行っています。

より多くの人に雪上での安全対策に必要な技術や知識を取得してもらいたいという濱田さんは、赤十字雪上安全法指導員でもあり、講師としてこれまでに10人以上を救助員として養成し、スキーパトロールの輪を広げました。

「スキー場には笑顔があふれていてほしい」と語る濱田さんは、これからも、多くの人がスノースポーツを楽しむカルルス温泉サンライバスキー場を見守っていきま

# き ら り

KIRARI

はま だ かず お  
**濱田 一夫**さん(幌別町)

今年は12月16日(出)に、オープンを予定しているカルルス温泉サンライバスキー場。例年、地域の方はもちろん、海外から来た観光客など、多くの方が訪れ、スキーやスノーボードなどを楽しんでいます。今回は、同スキー場で32年前からスキーパトロールを続け、利用者の安全を支えてきた濱田さんにスキーパトロールの仕事について伺いました。

## 安全で楽しい スキー場に



昭和28年、登別市生まれ。64歳。

昭和53年に公益財団法人全日本スキー連盟に加入。昭和60年、同連盟のスキーパトロールの公認資格を取得し、カルルス温泉サンライバスキー場でパトロールを行っている。建築板金業の浜田金属板金(株)を経営しながら、登別温泉などでのイベントに多く参加している。